

9月8日（日曜日）の朝目覚めてすぐにテレビのスイッチを入れると、東京五輪開催決定のニュースが飛び込んできました。前夜はマドリード有利との報道もあり、「ダメかもしれないなあ」との不安な気持ちを抱いたまま寝てしまっただけに、新鮮な驚きとわくわくするような未来への希望というか嬉しい気持ちが湧きあがってきました。

7年後にオリンピックがやってくる。およそ半世紀前の1964年、東京五輪は高度成長の真只中の成長著しい日本を世界に示す出来事でした。「明日は昨日より良くなる」とだれもが信じて疑わなかった時代でした。2020年の東京五輪はどうでしょうか。長期のデフレ、隣国との摩擦、東日本大震災からの復興を始めたばかりの時期に決まったオリンピック。過去のようにすべてが良くなっていく状況とはいかないのでしょうか、混迷した現在と不透明な未来に灯りがひとつ灯り、視界が少し開けたように感じられます。前夜のプレゼンで安倍首相は「福島は状況は、統御されています。東京には、いかなる悪影響にしろ、これまで及ぼしたことはなく、今後とも、及ぼすことはありません。」と断言しましたが、まだそんなに安定した状況ではないのではと疑問符が付きそうです。2020年に向けて日本が取り組むべきものは、原発事故の完全な沈静化と震災被災地の復興を成し遂げ、さらに隣国との関係を改善して、国民のすべて世界中のすべての人たちが五輪を心の底から楽しめる状況を作っていくことであると思います。

さて、10月号の表紙はエルサレム市街とパレスチナ自治区境界の壁です。長年にわたるユダヤ人とパレスチナ人の争いが刻み込まれているかのような迫力があります。

報告では、平成25年度第3回沖縄県・沖縄県医師会連絡会議の報告が玉城副会長からありました。この中で、県医師会から臨床研修医確保対策合同説明会参加モデル事業継続についての要望を行った。これに対し、県からの満足のいく回答が得られないため、さらにこのプロジェクトの沖縄県の医師確保、研修レベル向上の

面からの重要性に関する説明を行った結果、なんとか県から一定の支援の回答を得ることができた経緯が報告されています。医師会長、副会長他参加された先生方の熱心な説明が県を動かしたと思います。お疲れさまでした。

生涯教育では、くも膜下出血に対する脳動脈瘤コイル塞栓術について與那覇先生がわかりやすく解説していて、低侵襲手術の進歩に感銘を受けました。

プライマリケアコーナーでは稲福先生が頭痛について、実践的な診断手順、要点、治療、療養指導などわかりやすく説明されています。このなかの情報収集チェックシートは日常の診療に取り入れると大いに役に立つと思います。

H25年4月1日から那覇市が中核市に移行することに伴い、那覇市保健所が設置されました。その初代所長に国吉秀樹先生が就任されました。「頼れる保健所。フットワークの良い保健活動」をモットーとして、県医師会とも連携して頑張っていきたいとの意欲的なインタビューです。今後のご活躍が期待されます。

今月の月間行事は盛りだくさんで、「麻酔の日」「骨と関節の日」「目ノ愛護デー」「骨髄バンク推進月間」「ピンクリボン運動月間」「臓器移植月間」6つの行事に対する7編の記事があります。

ロゴマークは語るは久しぶりの登場です。“ゆい”という名とよくあったロゴで、ほのぼのとした感じです。ゆいクリニックのご発展をお祈りします。

随筆は長嶺先生のシナイ半島とイスラエルの旅行記です。装甲車先導の移動や足の爪に出血しながらの登山、死海での浮遊（奥様?）、パレスチナ自治区の壁等とても印象的です。

この原稿の最終締め切り日は敬老の日です。台風18号が本土に上陸し列島縦断の気配です。福島原発にも豪雨が心配されます。汚染水の海への拡散防止のための完璧な対策が一刻も早く行われるよう祈っています。

広報委員 平良 豊